



看護業務検討WG 実態調査結果 看護師の医行為に医師の期待大きく

公開可

◎看護師の業務拡大は医師・看護師ともに肯定的 看護業務 WG

第3回「チーム医療推進のための看護業務検討WG」が27日に開催され、「看護業務実態調査」の調査結果（速報）が報告された。調査票の配布者総数は推計で48,030人。有効回答数は8,104人、回答率は推計で16.9%となった。各調査項目の回答の散布図からは、ほとんどの医療処置で看護師が実施することに対する医師の期待が大きい傾向が示された。議論では、予想以上に看護師が医行為を行っている実態が分かったことや、法律上実施できるのに実施していない行為も相当程度あり、その阻害要因も分析すべきという意見が出された。本調査の主任研究者でもある前原正明委員は、看護師が実施しているとの回答が5%以下で、将来的に看護師が実施可能とした割合が高かった医行為を目安に検討することを提案した。

→法人会員ネットに掲載

◎「2010年 病院における看護職員需給状況調査」へのご協力を

すべての病院の看護部長が対象となる本調査が、2010年10月1日（金）～15日（金）で行われる。今年の調査内容は、病棟や外来、治療室などにおける看護職員の配置状況や夜勤の実態など。結果は、次回診療報酬改定に向けて、中央社会保険医療協議会や関係審議会などで、看護への適切な評価を求めていく際の重要な基礎資料として活用される。自由記載欄もあるので、この調査を活用して臨床現場の実態を本会に情報提供していただきたい。